

8-6 資格・CPD部会

1. 主な活動の記録

(1) 資格・CPD部会の開催

部会開催回数：11回

(2) 資格・CPD部会の組織

資格・CPD部会は、技術者の能力開発と適正な資格制度の確立を目指しており、RCCM資格制度委員会、CPD委員会の2委員会で構成されている。さらに、RCCM資格制度委員会には自主学習システム専門委員会を設置し、CPD委員会には集合研修調整専門委員会とCPD監査専門委員会を設置して活動を行っている。

(3) 委員会の活動

a) RCCM資格制度委員会

①技術者資格登録制度への対応、②更新講習会の在り方、③RCCM資格の未来像、を中心に活動を行った。

① 技術者資格登録制度への対応

RCCMについて、平成29年度は5施設分野10資格(RCCM5技術部門)を登録申請した。

具体的には、(1)堤防・河道(河川、砂防及び海岸・海洋)、(2)港湾施設(港湾及び空港)、(3)舗装(道路)、(4)小規模付属物(施工計画・施工設備及び積算)、(5)電気・通信・制御処理システム(建設情報)。このうち、建設情報を除く4施設分野9資格(RCCM4技術部門)が新たに登録された。

② 更新講習会の在り方

更新講習会受講者を対象にアンケート調査を実施。調査結果をもとに、検討を進め、「集合講習会」から「ビデオ形式のWeb講習会」に移行する方針とした。

③ RCCM資格の未来像

建設コンサルタントの新たな資格の法制化(国家資格化)について、品確法を踏まえ資格制度の基本的な項目(目的、定義、対象施設、資格の基本構成など)の検討を進めた。

b) CPD委員会

「①CPD監査の実施と結果の分析」、「②CPD会員利用規約及びCPD認定プログラム申請者利用規約の改定とCPDシステムの運用」、「③協会会員のCPD取得支援」を中心に活動を行った。

① CPD監査の実施

平成29年度の監査として、CPD記録登録者の1%程度を目途に200名を対象とし、監査を実施した。平成23年度から本格的なCPD監査を開始したが、今回の教育形態別記録状況を見ると、前回に比べ自己学習の比率が5%増加し、業務経験の比率が5%減少するなど、教育プログラムの選択傾向に変化が見られた。監査結果の総括としては、新システム導入から1年が経過し、重大な不適合記録が大幅に減少するなど、CPD記録登録は概ね適正に行われていると判断できる。

② CPD会員利用規約及びCPD認定プログラム申請者利用規約の改定

CPDシステムの運用に際し、不都合の改善を図るためCPD会員利用規約の改定を行った。また、CPD認定プログラム申請手続きの有料化に伴い、CPD認定プログラム申請者利用規約の改定を行った。

③ 協会会員のCPD取得支援

協会会員のCPD取得を支援するため、DVDやWEB等のメディアを活用することにより、多くの会員に利用していただくことを目的に活動を行った。今年度は、セミナーDVDを4枚作成し、協会会員各社に無料配布するとともに、協会HP上でセミナー動画のWEB配信を行い、視聴できるようにした。

2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施する。なお、各委員会及び専門委員会活動の詳細は、8-6-1～8-6-5に示す。

(資格・CPD部会部会長 花岡 憲男)